

## 薬剤部 DI ニュース

**インフルエンザワクチン****Question**

**インフルエンザワクチンと有効性はどんなものでしょうか？**

**Answer**

インフルエンザワクチンは、昨シーズンよりA型2種およびB型2種のウイルス株を含む4価ワクチンを使用しています。  
有効性は、年齢や免疫応答、流行株とワクチン株との抗原性の一致度などで異なりますが、インフルエンザの発症や原疾患の増悪・細菌感染症・小児では中耳炎の合併熱性けいれん・気管支喘息の誘発・急性脳症などの重症化・死亡の予防に一定の効果があるとされています。  
また、ワクチンの効果の持続期間は短く、有効性が持続する期間は約5か月といわれています。

**Question**

**接種回数と2回接種時の接種間隔はどれくらいですか？  
またいつ接種時期はいつがいいですか？**

**Answer**

65歳以上の高齢者に対して1回接種が推奨されています。1回の接種で重症化予防、インフルエンザによる死亡予防効果が検証されているためです。  
13歳以上65歳未満の方は、1回か2回かは接種医に委ねられていますが、1回接種で効果が得られると考えられており、13歳以上は1回接種となっています。  
小児（6ヵ月～13歳未満）は2回接種になっています。間隔は2～4週間とされていますができるだけ3～4週間の間隔をあけると免疫の獲得はよいといわれています。

図.インフルエンザワクチンの接種量・接種回数・接種間隔

接種年齢	1回接種量 (mL)	接種回数	2回接種の間隔
6ヵ月未満	適応なし		
6ヵ月～1歳未満	0.25	2回	およそ 2～4週
1～3歳未満			
3～13歳未満	0.5	1回 または 2回	およそ 1～4週
13歳以上			

**Answer**

接種時期については、インフルエンザの流行が12月下旬から4月上旬にかけてみられることが多いため、10～11月が接種に適しており、遅くとも12月中旬までに接種することが望ましいです。

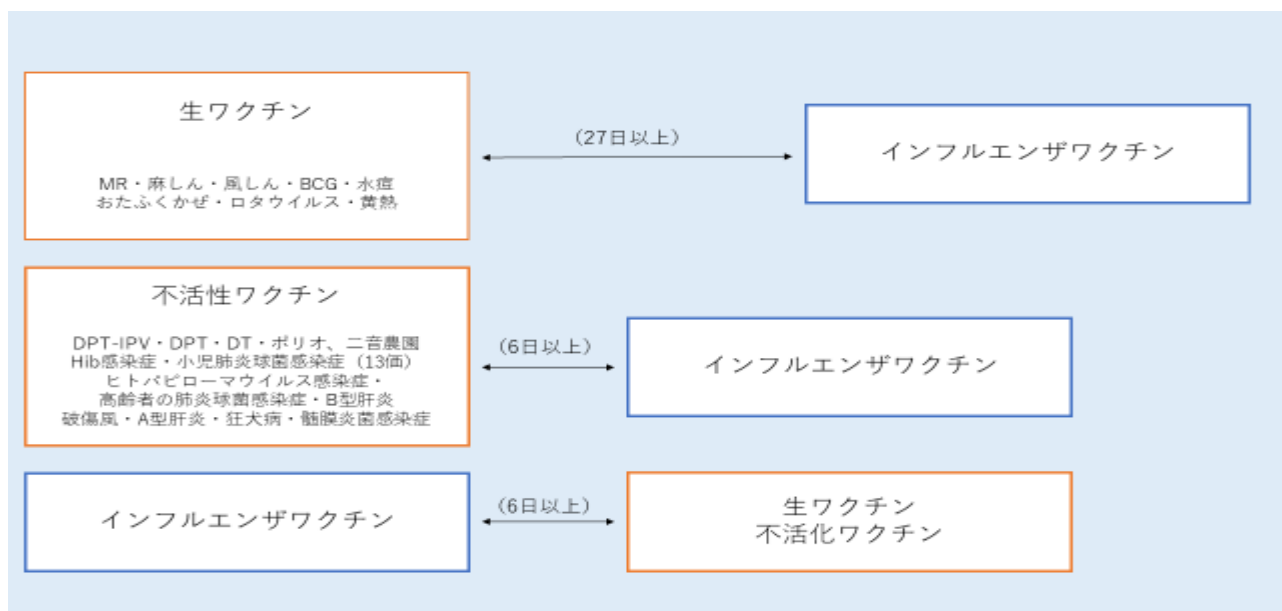
## Question

他のワクチンとの接種間隔はどのくらいですか？

## Answer

不活化ワクチンと生ワクチンの違いによって接種間隔が違います。まとめると図のようになります。また、間隔をあげ1種類ずつの接種が一般的でしたが、海外で広く行われている同時接種が普及しつつあります。

図.他の予防接種との接種期間



## インフルエンザを予防する方法

①流行前のワクチン接種

②手洗いやアルコールによる手指衛生

③咳エチケット



④適度な湿度を保つ

⑤十分な栄養を摂取する

⑥むやみに人込みに入らない

